

OPINION

中部経済新聞

エジプト国立クリーナー・プロダクションセンター（EN CPC）で所長代理を務めるマイサラです。EN CPCは産業省（当時は通商・産業省）の管轄で、エジプトの産業界にサービスを提供する機関として2005年に設立されま

ナビゲーター

した。同省とUNIDO（国連工業開発機関）の緊密な協力のもと、UNIDOとUNEP（国連環境計画）が合同で推進するグローバルな取り組みをする「よりグリーンな生産プログラム」に参画するセンターのひとつです。世界で52の機関が加盟し、ネット

其
144

期待の日本へ 世界各地から

日本のグリーン水素技術にも期待

ワークを構成しています。同センターの設立にあたっては、スイス政府およびオーストリア政府からの支援と、エジプト政府からの拠出がありました。

私のこのコラムへの寄稿は約2年ぶりですが、その間に着任したEN CPCでは七つの新しい任務があります。

一、センターのスタッフを能力やスキルに合わせて再編成し、明確な組織構造を確立し、このセンターを国内外に示すこと。

二、2人の次席をセンター

エジプトの生産性向上を目指して

長や各部門長の下に配置すること。役割のひとつはセンターにおけるスタッフのモチベーションを高め、育成を促すこと。関係者が責任を自覚し、よりセンターの成功と改善に目を向けるようにする。もうひとつは、管理職としての才能を見出し、センターひいては産業省のために活躍してもらうこと。

三、あらゆる技術関連機関、調査機関や各種の研究機関との対話を始め、足並みをそろえて生産性向上の統合をはかること。

四、UNIDOによって設立された世界各地の加盟機関との対話から、経験を共有し、多様で最新の成果から学び、協力の機会を探ること。

五、環境分野、持続的な発展に関わる国際的な機関と対話し、投資機会とプロジェクトについて調査すること。SDGsを達成するための資金を得てエジプトの経済界にとって利益とすること。

六、環境省との対話を通して、産業界に影響を与え、国内への投資機会を減らすような未解決の環境問題の解決に

七、エジプトの全産業分野を対象に質的な転換をもたらす、第2次産業と第1次産業における廃棄物交換プラットフォーム構築に関する事業を完了させること。

私は日本での研修に参加して、日本流のものごとの進め方に登場する「道、場、型」という三つの概念を学びました。幅広く考え、さまざまな側面を捉えるために、種々のツールを使うことも学びました。5W2H、QCDSME、1SM、カイゼンの五つの次元、5Sについても。

帰国後、私はエジプトのカイゼンセンターに、協力して活動しようと提案し、共同で技術提案を行えるように話を進めています。グリーンテクノロジーはとくに重工業、鉄鋼、アルミニウム、セメント、肥料などの産業で期待されます。製造段階で二酸化炭素を発生させないグリーンな水素の生産にも関心があります。再生可能エネルギーと汚水処理は産業界での応用が待ち望まれています。日本からエジプトへの技術移転は、新たな産業分野でも必要といえます。

【マイサラ・アフメッド、
（月曜日に掲載）